

石見

取材網

15日付の松本祐一氏の本欄、中国山地の「鉄ちゃん」の旅を拝読。ちょうど日本に、毎年私が写している安田の車窓風景をテーマに、と思っていたので、タイトルを借用して続編ということにさせていただきま

す。はやがて遠田の田園地帯に海側の車窓風景をテーマに、と思っていたので、タイトルを借用して続編という手は白い砂浜の海岸線。その前方は古墳で有名な鷺ノ鼻の松林が海に突き出し、

いわみ 談話室

弁護士 佐和 洋亮さん



車窓鉄 お薦めの海岸線

鉄道マニア。乗るのは「乗振り返ると萩市の高山が洋り鉄」。列車を撮影する「撮上の富士山のよう。

り鉄」。私のように車窓から風景を写すのは「車窓鉄」。

私は汽車に乗る時は必ず小型デジカメを持参。では、石見の海岸線の撮影ポイントを紹介させていただきます。

れいな木部。そして、列車は弓形に湾に沿って急カーブ。そこが私の好きな撮影ポイントの大浜の港。車窓から湾が一望され、家並みの脇の港には漁船、遠くの益田の海岸線の先に高山。

列車は間もなく荒磯海岸



益田市の大浜の港

へ。荒磯海岸の白壁と青い海のコントラストが美しく、遠くに高島を見ながら岩と白波の海岸を進むと、三つの火力発電所の高い煙前の大麻山が。手面白がシャッターチャン

スはわずか。トンネルを抜けると折居海岸。沖合の小さな島を入れた海岸線はひとしおきれいで、人気の被写ボイントです。

浜田の家並みを過ぎると赤瓦に青い海、それにアクリスのタワーは絶好の被写体だが、一瞬なのでシャッターを押しそひれます。江津駅を過ぎると江の川。ゆったりと水をたたえるその上流は私の故郷・川本。感概に浸っている間に鉄橋を通過。そして、列車は馬路の琴ヶ浜、大田市の三瓶山などを見て出雲へと。

季節や天候によっていろいろな顔を見せる、美しい故郷の海岸です。

(浜田市細屋町在住)

- | | | |
|-------|-------------------|-------------------|
| ■西部本社 | TEL0800(24)0-0109 | FAX0800(24)0-0108 |
| ■益田総局 | TEL0800(24)1-800 | FAX0800(24)4-6000 |
| ■大田支局 | TEL0800(24)9-0066 | FAX0800(24)9-0066 |
| ■川本支局 | TEL0800(24)3-3010 | FAX0800(24)3-3012 |
| ■江津支局 | TEL0800(24)5-0247 | FAX0800(24)5-0247 |